

---

# ジャンクサロン

お茶だし2日目

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ジャンクサロン

### 【Nコード】

N3390M

### 【作者名】

お茶だし2日目

### 【あらすじ】

あまりにも冷めている、高校生の非日常のような日常。

ちなみに筆者は高1です。

## 序章

あたりは車の排気音がうるさい。  
ああ夜明けた。

新聞の配達はとっくに終わった。

私はユウキ。

普通の高校生だ

朝にあの浅黒い低脳バカをみ、  
はやく変わらないなと思っている  
ただの高校生である。

ただ私は公共機関の料金とバイク屋の中古価格が異様に嫌いなだけ  
である。

春の入学から2か月後ぐらいのとある日、

はやくこいよと思いながら、  
セフレ2号の所まで、

ゴリラで学校までいき、  
ラッキーを肺に含んで校門で、待っていた。  
「ごめん遅くなった」

メグミがやっときた。

いまの私のパーティーの3人の2番の奴である。  
その日私は、

食事や、ホテル代を全部出してもらい、  
頭が痛いといい、

5000円をせしめて帰った。

ざまあみる。

どうせあいつが、

ジジイからもらった金だ。

どう使おうが俺の勝手だ。

何事も

上流から下流を流れてくるんだ。

そう思いつつ、

私は預金した。

私はパチンコにも競輪や競馬もしない。

昔祖母が、

延々と

「賭け事は一回を太く賭けないと勝てないよ」といい続けたからかもしれない。

預金は、50万ある。

今50万で何をしたいかもまだ決めてない。

ATMから、入金した私は、

とにかく、サトシの所にいこうかなと、

私は、ゴリラで、先を急いだ。

あたりはまだ赤い。

5000円以上もらえたかななどと、

反省をしている内に、

サトシの家についた。

サトシの家は、自動車の整備工場だ。  
しかしそれは、部品とりやでもある。

だからサトシの家の前は、スクラップで溢れている  
サトシはたまに、

「車たちは可哀相だ。

車たちは、

持ち主に棄てられたんだよ

まったくひどいよな

アフリカなら、部品なくてもつくるのにな。

まったくひどいもんだ」

とヤレヤレといった感じでいうが、

それで儲かってるんだろと心では思った。

ガレージの中に、いたサトシは  
なにやらバイクをいじっていた。

「よ」とユウキはいった。

「おう」とサトシは返事はするが、全然乗ってこない。  
おいこのバイク何だよと

ユウキは、聞いた。

ああ、

これは、JOGの、初代だよ。  
けっこう早いんだぜ。

ボロボロのJOGを、みて、0円で、  
仕入れて来たらしい。

近くの、馬鹿に、  
エンジンを  
オーバーホール  
して売るらしい。

ユウキは、  
「何円で、売るんだよ」と聞いた。

「5万だよ」

サトシは、黄色い歯を、  
にっと、見せた。

「警察に通報します。」  
とユウキは、呆れた。

「僻むな」

という言葉を見無視して、

ユウキは、煙草を吸いにいった。

下流は、下流でしか生きれないのかよ。

のし上がれないもんな。  
煙草を、吸い終わり、

ユウキは、またガレージに、消えた。

## 一章

眠い。学校は、何の為に行くのだろう。  
ユウキは、特進に行っている。

だが、何も学んでいない。

授業が、薄っぺらいのだ  
話を聞かずとも、

教科書を見ればわかる。ことばかりだ。  
はあ。

おもしろいことないかな。

久しぶりに学校いくか。

一時間後、

ユウキは、サトシの所  
にまたいた。

サトシは、学校はいつてない。

サトシは、中1の時、  
わを、いと読んだ。

先生はうらめしそうに  
サトシをみた。

それからは、

サトシは音読に参加できなかった。

いつもそこで止まるからである。

サトシは悔しそうだった。

次の日

先生は、ひどい怪我をした。

先生の車のブレーキが、きかなかったのだ。

サトシは、ブレーキを外したのである。

先生は学校に来なくなった。

サトシは、黄色い歯を、にっと思せた。

サトシは、昨日のJOGを、まだいじっていた。

あんまりエンジンが、まわらないらしい。

「仕方ないエンジン全バラするか」

サトシは慣れた仕事ぶりで、腰上を外した。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3390m/>

---

ジャンクサロン

2010年10月10日04時35分発行